

普及現地情報



発信年月日：令和4年(2022年)6月15日
所 属 名：大津・南部農産普及課
番 号：A22003
部 門 分 類：160 果樹
発 信 者 名：村井、柴田

ナシ園でのグリーンでスマートな栽培体系への転換に向けた実証始まる

琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会では、環境にやさしい技術と省力化技術とを組み合わせたグリーンでスマートな栽培体系の技術実証を開始しました。

守山市北部の「もりやまフルーツランド」ナシ園では、令和2年に策定した産地計画により、化学合成農薬の使用回数削減や作業時間を削減できる技術導入を掲げています。

この度、関係者が一体となって琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会を設立し、化学合成農薬使用削減と除草作業時間削減によるグリーンでスマートな栽培体系の実現に向けて、天敵製剤とロボット草刈り機とを組み合わせた技術実証を開始しました。

天敵製剤は、ナシの主要害虫であるハダニ類を捕食するミヤコカブリダニをほ場に放飼するもので、県内ではイチゴ栽培で普及しているものの、ナシ栽培では初めての使用となります。

ロボット草刈り機は、家庭用ロボット掃除機のように指定エリア内を自動走行して除草作業を行います。本県のナシ園の多くは電源を有しないことから、太陽光パネルにより充電できる機体としました。

当課では、この協議会による技術実証に対し技術指導を行うとともに、調査結果のとりまとめ、栽培マニュアル作成、成果の情報発信等について支援していきます。



天敵製剤の設置



太陽光パネルによる充電後、自動除草するロボット草刈り機

